「此の蝶々がほんまに生きて飛んで居るやうでございます、宜う描いてございます、どうも」
「此間が菊の間ぢや」
「へェー」
「矢張り繪は元信先生ぢや」
「ア、何うも感心でございます」
「此間が乃ち紅葉の間ぢや」
「イヤどうも立派なもので、牡丹の間に菊の間に、此間が紅葉の間、矢つ張り都合紫の間で」
「紫、何だ紫とは」
「イエ、御存じのない事で恐入ります」
「時々解らぬ事を申すナ、此間が休息の間であるから、少時此處で休息致せ」
其處に堅丸は控へて居りますと、又もやお茶お菓子などを持つて參ります。
「中々大したものでございます、休息の間と云ふても是だけ大きいので、手前共の宅よりも大きうございます」
「併し嘶家、何うぢや御飯を食すか、酒でも出してやろうか」
「有難う存じます、只今支度をして參りましてございます、また御用濟になりましてから頂戴致しま